



本町の教育指標：「進取の気象」「国際性」「社会貢献」

嘉手納町 教育委員会だより

令和6年9月発行 嘉手納町教育委員会



嘉手納外語塾インターンシップ報告会

嘉手納外語塾の2年生は8月9日から9月6日まで、嘉手納基地内において1か月間のインターンシップを行いました。各自が目標を掲げ、ミリタリー&ファミリーレディースセンター他、5か所に分かれて、接客や電話対応等の業務に就きました。ベストインターン賞に輝いた花城凧夏さんは、「私はいつも失敗を恐れ、自分から行動することが得意ではありませんでした。何度も挑戦して少しずつ慣れていき、最終的に自分の言葉で伝えることができるようになりました。このインターンシップのおかげで、自信が持てるようになり英語力を向上させることができました。このような素晴らしい機会を与えてくださった嘉手納町と嘉手納空軍基地に感謝します。」と感謝の言葉を述べていました。※インターンシップ＝「就業体験」をすること



嘉手納町陸上競技大会

第76回嘉手納町陸上競技大会が9月8日に開催され、各種目で熱戦が繰り広げられ、2つの大会新記録が出るなどたいへん盛り上がった大会となりました。今大会の総合優勝はオレンジ旋風を巻き起こした西浜区が、2位は南区、3位は東区となりました。

●大会新記録

- ①800M 壮年男子 40代 比嘉 良武(西浜区) 2'17"07
- ②走高跳壮年男子 40代 島袋 靖(中央区) 1m60cm



山形県最上広域交流圏少年少女派遣交流団「歓迎交流会」

9月10日、山形県最上広域少年少女沖縄派遣交流団の歓迎交流会が、うるま市のキャッスルハイランダーで行われました。最上広域圏の小学6年生と中部広域圏の小学5年生が交流しました。交流会では、児童らが作成した名刺交換会や、派遣団による花笠音頭が披露されました。本町からは、屋良小学校の石嶺雄盛さん(5年)と嘉手納小学校の大城清彩さん(5年)が参加し、友情を深めていました。冬の交流には、屋良小学校の平地結菜さん(5年)を含め、3名が参加します。🎵🎵🎵🎵🎵🎵



全国学力・学習状況調査結果の速報！

令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。この調査の目的は、義務教育である小・中学校で、効果的な授業が行われているのか。不十分だったとしたら、その原因は何か。そのうえで、学力を上げるためにはどこを直す必要があるのか。そうした問題点を探ることが目的です。

<小学校の正答率>

科目	嘉手納町	沖縄県	全国
国語	66.0%	66.0%	67.0%
算数	60.0%	58.0%	63.4%

<中学校の正答率>

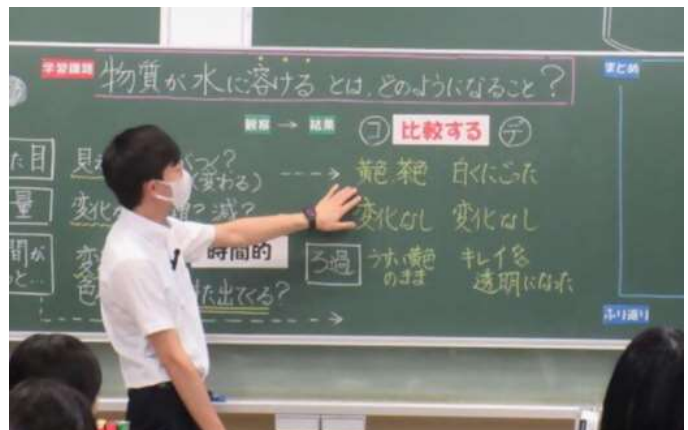
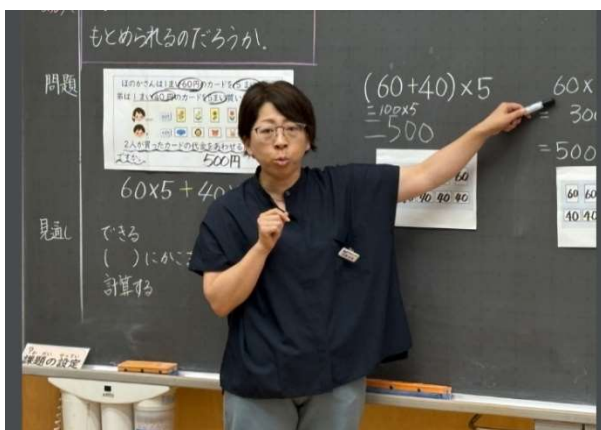
科目	嘉手納町	沖縄県	全国
国語	56.0%	53.0%	58.1%
数学	41.0%	43.0%	52.5%

●全国学力・学習状況調査をどう活用する？

- ・調査結果をもとに、今までの授業がよかったのか悪かったのか、客観的に検証し、次の授業を工夫することが大切になります。もちろん学校だけに努力を求めるだけでなく、教育委員会の役割も問われます。場合によっては、家庭での子どもの生活を見直さなければならなくなるかもしれません。家庭の理解と協力も必要になります。
- ・学校や授業をよくし、子どもの学力を向上するためには、誰が、何を、どうすればいいのか。保護者と先生が率直に話し合うきっかけにしたいものです。

秋田県大館市教職員招聘交流事業

9月10日～13日にわたって、秋田県大館市教職員招聘交流事業がありました。この交流事業は、共感的・協働的な学び合いを基盤にした学習スタイルを推進している秋田県大館市より教師を招聘し、授業技術や教材研究の手法を学び、授業力向上を図ることを目的としています。今回招聘した方は、東中学校の伊多波卓美校長、北陽中学校の湊裕貴教諭、釈迦内小学校の佐藤由美教諭の3名です。湊教諭と佐藤教諭には、「おおだて型授業」を公開していただきました。参観された先生方は、この公開授業を通して、明日の教育実践につながる授業方法を学ぶことができました。また、伊多波校長の教育講話では、「消滅可能都市の危機感を共有しながら、未来の大館市民を育てるために、自分と社会の幸せを実現できる子どもたちを育成することが大事、そのために、学校においては集団づくりを学校づくりの中心に据えている」と強調していました。（個人と社会のウェルビーイング！）



授業は冒険だ！一人一人が主人公！



秋田県大館市の学校では、授業（学習）の流れを「冒険」になぞらえて子供たちに説明し、主体的な学びを促しています。本町の「課題解決型授業」も大館市と同じ考え方に基づいて提案しています。※「おおだて型授業」の特徴 ↓

めあて

冒険は小さな「違和感」から始まる⇒課題発見の力

先生から
子供たちへ



違和感をもたないと課題はつくれません。先生にめあてを教えてもらい、やり方も教えてもらっているようでは時代遅れ！社会に出たら役に立ちません。

ここがポイント！

子供の問いから
課題をつくる！

- (1) 子供の困り感
- (2) 学びの違和感
- (3) 子供の気付き・疑問

見通し 自力解決

冒険には地図が必要だ ⇒冒険の旅に行くために見通しと自分の考えをもつ

先生から
子供たちへ



まずは見通しをもとに一歩を踏み出しましょう。わからないからといって人に頼っていたら何も身に付きません。どこがわからないのか、どこで間違ったのか、途中で正しいから自分で考えることが大切です。

ここがポイント！

見通しをしっかりと
もたせる！

- (1) 学習過程の見通し
- (2) 解の見通し
- (3) 方法の見通し

学び合い

冒険には「影の主役」がいる ⇒どんな強い勇者でも、1人で冒険に出ることはできない

先生から
子供たちへ



助けてくれる人や、違う考えをもっている人がいるから困難を乗り越えることができます。自分の活躍の場面は自分でつくりまします。活躍できるタイミングを自分で見つけるのです。

ここがポイント！

「個」の考えをつ
なぎながら、学
び、「思考」を深
める！

- (1) 発表内容に耳を傾ける
- (2) 発表を聞いている児童を学び合いに巻き込む
- (3) 論点を整理する
- (4) ゆさぶりの発問

まとめ 適用題

新たな知識という宝を発見 ⇒ 知識を自分のものにする

先生から
子供たちへ



今日、どんな宝を見つけたのか、先生に教えてもらっていいけど感動はありませんね。授業の最初はできなくても、発見した宝を使って最後の評価問題が一人でできればいいのです。

ここがポイント！

「めあて」とつな
がる一般化され
た「まとめ」を
適用題に活用す
る！

- (1) ネームプレートを活用し、進捗状況を確認 ⇒個別最適化
- (2) 県の単元テストの活用

振り返り

冒険を「振り返る」⇒新たな冒険のはじまり

先生から
子供たちへ



誰でもいつでも書けそうな振り返りは望んでいません。今日の冒険で何を得たかを振り返り、記録することが大切なのです。実は算数が苦手な人の方が振り返りは得意です。

ここがポイント！

自己を客観的に
見つめることで、
今後の学びへと
つなげる！

- (1) どのように変容したのか
- (2) どの場面で変容したのか
- (3) 変容の原因は何か
- (4) 生活の中でも活かせるか

嘉手納町ハワイ短期留学派遣事業報告会

9月29日、中央公民館で嘉手納町ハワイ短期留学派遣事業報告会がありました。嘉手納中学校3年の我那覇莉子さんは、「この短期留学を通して、語学だけでなく、コミュニケーションや異文化交流の大切さ、自分の考え方を覚えるだけで物の見方も変わるということを学びました」と報告し、また、球陽高校2年の金城美賀子さんは、「言葉、年齢の壁があったとしても、自分から伝えよう、話そうという意思があれば、その壁も関係なく人と繋がることできる」と述べていました。



●令和6年度ハワイ短期留学派遣者一覧

嘉手納中学校 1年 宮里 エリサ	昭和薬科大学附属中学校 1年 仲村渠 愛結
嘉手納中学校 2年 津覇 一心	沖縄水産高等学校 2年 多和田 碧
嘉手納中学校 2年 金城 カナ	球陽高等学校 2年 金城 美賀子
嘉手納中学校 3年 奥間 空太	開邦高等学校 2年 岡野 美滯
嘉手納中学校 3年 我那覇 莉子	コザ高等学校 3年 横田 福育

日米音楽交流合同コンサートへ嘉手納中学校出演！

9月29日、沖縄アリーナで日米音楽交流合同コンサートがありました。同コンサートに嘉手納中学校吹奏楽部が出演しました。同校の演奏が始まると、軽快なリズムが会場中に響き渡り、思わず体が踊り出してしまうような演奏でした。とりわけ、THE BOOMの「風になりたい」では、トランペットやサクソなどのソロがかっこよく、心の奥底に響く美しさがあり、忘れられませんでした。生徒のみなさんの息の合った演奏に、日々の練習の成果を感じ、感動しました。「一音入魂」の言葉どおり、一音一音に魂が込められ、美しいメロディを奏でていました。聴衆の一人として嘉中生の活躍を間近で見られて、とても誇らしく思うとともに、「音楽って本当に素晴らしい！」と改めて感じさせられました。10月27日（日）、かでな文化センターにおいて、嘉手納中学校吹奏楽部定期演奏会を予定しているそうです。この機会に嘉中生の魂の演奏を感じてみませんか。文化センターへGO！

「いかのおすし」運動について

「いかのおすし」は、子どもたちを対象とした防犯標語で、知らない大人に声をかけられたり、危険な状況に遭遇したりした際に、身を守るための行動を楽しく覚えられるように作られたものです。

「いかのおすし」運動の背景には、残念ながら、子どもたちを狙った犯罪が後を絶たないという現実があります。そのために、子どもたちの安全意識（防犯意識）を高め、未然に犯罪を防ぐために、地域全体で子どもたちを守ることが大切です。具体的には、子どもたちに「いかのおすし」の意味を理解させ、具体的な行動を教えることが大切です。ぜひ、これを参考にご家庭でもご指導をお願いします。

